Management Club Report

May. 2008/Vol.65

Monthly Opinion　≪歯科医療の本道を往く≫

医療制度が揺れています。もめている論点は何でしょうか。手順や手続き、果ては制度のネーミングまでが取り沙汰されていますが、詰まるところは「増大する医療費の負担を誰が担うのか」という点に集約されます。

そしてその根底には社会経済の要素が複雑に絡み合ってはいますが、これも突き詰めれば医療機関と受診者の双方における「公的な制度を有利に利用しよう」とする『既得権に対する思惑』の重なり合いに行き着くのではないかと考えます。

医療機関には程度の差はあれ「より多く医療費を得よう」としての過剰診療傾向が窺われますし、受診者側には「医は仁術なり」を逆手にとっての過剰受診と身勝手受診が垣間見えるのです。

この過剰診療と過剰受診の関係は、『サービスの提供者対受け手』という本来は“対立関係”にあるべき医療機関と受診者を、表裏一体となって同一方向を目指す“協調関係”に仕立て上げてきました。

公費は正しく惜しみながら使うべきです。公費を間に挟んで手前勝手な活用ばかりに熱心な医療者と受信者の関係が続くようでは国家の発展や医療の進歩は望むべくもありません。今月は『歯科医療の本道』について考えたいと思います。

1　完全予約制を謳いながら急患を入れる矛盾

歯科医院の急患とは何だろう？

私は、昭和５５年（１９８０年）１月に縁あってジャパンデンタルという創業１年に満たない会社に入ったのが歯科界とのお付き合いの始まりです。もう２８年もこの業界にお世話になっているのですが、まだ分からないことがたくさんあります。そのひとつが『歯科の急患』です。歯科医院に『急患』は存在するのか？というのが素朴な疑問です。

そして、今月のテーマである『歯科医療の本道』は、この『急患』に対する考え方と取り組み方に色濃く反映されるものと考えています。